

病院でもらう胃薬



普段よくのお薬の一つに胃薬があります。



「食べ過ぎ・飲み過ぎ」「胃が痛い」「胃がもたれる」「胸焼けがする」「胃がムカムカする」などつい気軽に手が出るお薬であるといえます。病院においてもいろいろな場合に胃薬が出されていますが、「胃薬」といってもいろいろな種類があり、それぞれ目的をもって処方されています。



攻撃因子抑制剤

1 ヒスタミンH₂受容体拮抗剤 (ガスター、ザンタックetc.)

「H₂ブロッカー」ともいわれ、最近では市販薬にも使用されるようになりました。胃酸の分泌を抑え、胃粘膜や胃壁・十二指腸などが過度の胃酸により消化されて傷つくのを抑える薬です。

2 プロトンポンプ阻害剤 (オメプラール、タケプロンetc.)

「H₂ブロッカー」よりも強力に胃酸の分泌を抑え、胃粘膜や胃壁・十二指腸などを過度の胃酸から守ります。胃内にすむ「ヘリコバクター・ピロリ」という菌の除菌の際に使われることもあります。

3 抗コリン剤 (ガストロゼピン、コランチル、セスデン、チアトン、プスコパンetc.)

胃などの消化管の働きを活発にする物質の働きを抑えることにより、胃酸の分泌を抑え、胃粘膜や胃壁・十二指腸などが傷つかないようにする薬です。また、消化管の過剰な働きを抑えることにより、腹痛などの症状を改善します。

4 制酸剤 (酸化マグネシウム、炭酸水素ナトリウム(重曹)etc.)

過度の胃酸を科学的に中和することにより、胃粘膜や胃壁・十二指腸などが傷つかないようにする薬です。酸化マグネシウムは下剤としても使用されています。

防 御 因 子 増 強 剤

1 胃粘膜保護剤 (アルサルミン、マーズレンSetc.)

胃粘膜を覆うことによって胃酸などの攻撃から胃を守る薬です。

2 防御因子増強剤 (セルベックス、ノイエル、ムコスタ、アブレースetc.)

組織修復促進剤ともいわれ、胃や腸を胃酸などの攻撃から守るための粘膜の血行を保ったり、粘液の分泌を促進する薬です。

3 プロスタグランジン製剤 (カムリード、サイトテックetc.)

胃壁や十二指腸を傷つける胃酸の分泌を抑え、胃や腸を胃酸などの攻撃から守るための粘膜の血行をよくし、粘液の分泌を促進する薬です。

4 抗ドパミン剤 (ドグマチールetc.)

交感神経の中樞に働いて胃腸の血行を促進して粘膜を修復し、同時に胃・腸の動きをよくするお薬です。

健 胃 消 化 剤

1 健胃剤 (SM、KM、A・M散etc.)

消化酵素により消化を助けたり、制酸剤により胃酸を中和したり、生薬(苦味・香味)により消化管の動きを活発にしたりする薬です。

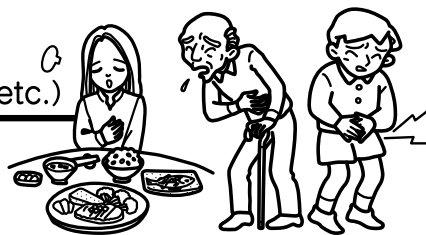
2 消化酵素剤 (タフマックE、ベリチーム、エクセラージェetc.)

いろいろな消化酵素により蛋白質、脂肪、繊維素を分解して消化を助ける薬です。

胃 腸 機 能 調 整 剤

(ナウゼリン、プリンペラン、セレキノ、ガスモチン、ガナトンetc.)

消化管の運動を整え、吐き気、嘔吐、腹痛、食欲不振、腹部膨満感などを改善する薬です。



代表的な薬の一部を紹介しましたが、これ以外にも消化管内のガスを減らしておなかの張りを軽減する薬や麻酔作用によって痛みをとる薬など他にもいろいろな薬があります。簡単に「胃薬」といっても妊婦さんがのんではいけない薬や緑内障・前立腺肥大による排尿障害を悪化させる薬など危険な薬もあります。また、他の薬の効き目を弱くするなど相互作用を持つ薬もあります。たかが「胃薬」でも安易に「胃の調子が悪いから、前にもらった胃薬をもう…」などと古い薬をのんだり、他人に「この薬は胃に効くからどうぞ…」と他人に薬をあげたりせず、きちんと医療機関に相談してからのむようにしましょう。

